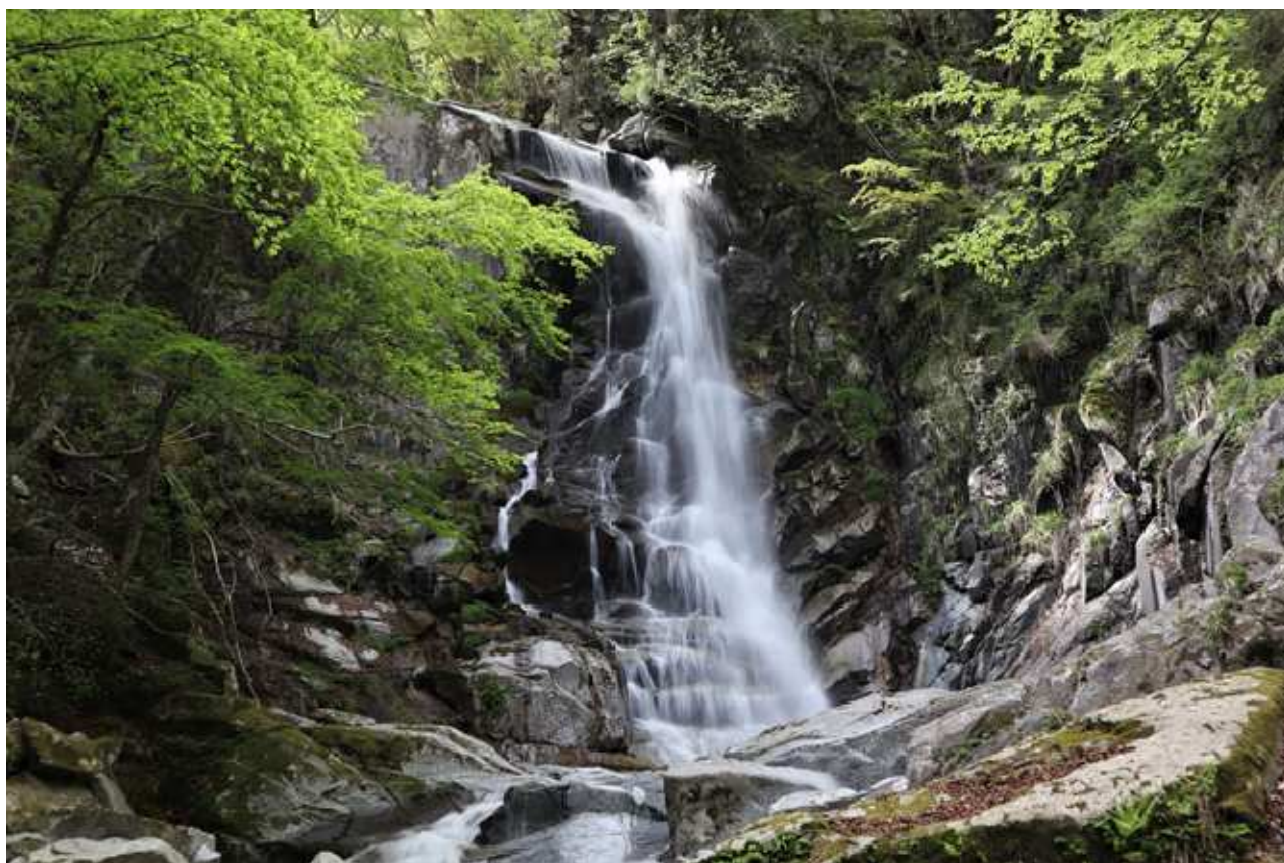


# 第44回「全日本中学生水の作文コンクール」

## 神奈川県優秀作文集



令和4年7月

# 「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、日常生活での体験あるいはご両親や先生方から学び聞いた話をもとに、水について考えていただくという趣旨で、昭和54年から「水の週間」の行事の一環として実施しています。

神奈川県では、平成19年度から新たに水源環境保全・再生施策の取組みがスタートしたことを機として、平成20年度から神奈川県独自の賞として水源環境賞を創設しました。

神奈川県内では320編の応募があり、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定しました。

この11編について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも、生活や学校での体験を通して、水について理解を深め、水を大切にしていこうとする中学生の皆さんの気持ちがよく表現されています。ぜひご一読ください。

第44回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次のとおり行われました。

- 1 応募要領
  - ①テーマ…「水について考える」（題名は自由）
  - ②対象…令和4年度に神奈川県内在学の中学生
  - ③原稿枚数…400字詰原稿用紙4枚以内で日本語により表記された個人作品
  - ④あて先…神奈川県内の場合、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
  - ⑤募集期間…令和4年3月1日～令和4年5月7日（消印有効）
  - ⑥著作権等…○応募作品の著作権は水循環政策本部、国土交通省及び神奈川県に帰属する。  
○応募作品は自作の未発表のものに限る。  
○応募作品の返却は行わない。

## 2 神奈川県内 応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別（編）		
		1年	2年	3年
8校	320編	62	1	257

## 3 審査

- (1) 都道府県審査 応募作品について神奈川県が審査を行い、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定。最優秀賞及び優秀賞の計5編については、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。
- (2) 中央審査 都道府県の地方審査を経た作文を対象に、中央審査会（国土交通省主催）で最優秀賞1編・優秀賞10編・入選29編を選定した。

### 「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日 閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他の関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

### 水循環基本法（平成26年法律第16号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

### \*表紙写真

「春のモロコボ大滝」 厚木市 山本 雄二さん撮影

（令和2年度神奈川県PRキャラクター「かながわキンタロウ」のFacebookページと神奈川県公式Twitter掲載作品）

# 目次

## 最優秀賞

森を育てて水を守る ..... 聖園女学院中学校一年 ..... 永峰由埜

## 優秀賞

水のふるさと ..... 横浜市立新羽中学校三年 ..... 近藤杏樹  
水不足は身近な問題 ..... 横浜市立新羽中学校三年 ..... 初山智康  
安全な水の現状と私たちにできること ..... 川崎市立白鳥中学校一年 ..... 原口 權  
水と私たち ..... 横浜市立南戸塚中学校三年 ..... 若狭いおり

## 入 選

水の大切さ ..... 横浜市立南戸塚中学校三年 ..... 實方瑚菜  
おいしい水の命は元気な森 ..... 聖園女学院中学校一年 ..... 細谷理夏  
水から学ぶこと ..... 横浜市立南戸塚中学校三年 ..... 柳田亜美来

## 水源環境賞

川の変化と将来 ..... 横浜市立新羽中学校三年 ..... 加藤千尋  
水の命は人の命 ..... 横浜市立篠原中学校三年 ..... 齋藤桜彩  
蛇口を閉じてみれば ..... 横浜市立南戸塚中学校三年 ..... 前田千尋

## 森を育てて水を守る

聖園女学院中学校

一年 永峰 由埜

今にも雨が降りそうだ。休日には両親とよく散歩をする。今日の目的地は家を出る前に決めていた。まっすぐ川を目指して歩き出す。

私が住む横浜市保土ヶ谷区には横浜市唯一の溪谷といわれる陣ヶ下溪谷公園がある。小さな溪谷だが街の中とは思えない自然豊かな場所だ。溪谷に行く前に住宅街の中を流れる帷子川沿いを歩く。川底と両岸をコンクリートで固めてある。目の前の川は水量も多く流れも速い。川底は見えず、天気の良いか灰色がかかっていておせじにもきれいとは言えない。私が「川」と言われて思い浮かべるのはこんな川だ。コンクリートで深く掘り下げてあるので下りていくことはできないが、「とてもさわれないな」と思いながら目的地を目指す。陣ヶ下溪谷公園の

入り口にたどり着くと急に周囲の気配が変わる。木々がうっそうとしげり、空気はひんやりと冷たい。しめった土をふみながら下へ下へと斜面を下りていく。近くを通る環状道路の車の音が段々と水音に消されて小さくなる。谷の一番下まで下りると川のせせらぎはどうどくと鳴っていた。水は澄んでいて思わず手をのばしてすくった。水道水のキンとした冷たさとはちがうやわらかい感触だった。この水はどこから来るのだろうか。

水源について調べると陣ヶ下溪谷の上流では雨水のほかに、少しだが生活排水も流れこんでいることがわかった。なぜこんなにきれいな水が流れているのか。自分がふみしめたふかふかとした、しめった土はスポンジのような役割を果たしている。雨水を森の土が吸い、長い時間をかけて湧き出た水を流す。大雨が降っても一気に川に流れ出ることがないので洪水が起こりにくく、反対に雨が降らずに乾燥しても土の中にためられるので水がなくなることもない。森林が「緑のダム」といわれるゆえんである。森林の役割はダム機能だけではない。森の土にしみこんだ水は、いくつもの地層を通り抜けてる過される。森の土は自然の浄水場の役割もはたしている。

先に歩いた帷子川付近はもともと水害の多い地域であったため、コンクリートで周りを固める工法を用いて川のはんらんを抑えてきた。しかしこのような川は水不足の時期になると汚れやすい。本来ならば、川底の岩や砂に水草が生え、微生物が付き、それをえきにする小動物や魚が生息する。川は水を運ぶだけでなく、流れの中で動植物を育て、浄化しながら水をきれいにする。人を守るための治水工事が結果的に水を汚染していることに気づき、ゆううつな気持ちになった。

しかし、人の手が入ることがすべて悪いとは言えない。この反省を生かして横浜市栄区の狹川では水辺の自然復元工事を行い、自然の姿を取り戻しつつある。これもやはり人の手によらなければ実現しなかったことだ。

陣ヶ下溪谷も雨水や生活排水が川に流れこみ、溪谷を通ることによって水を浄化している。しかし森も手入れをしなければ育たない。この溪谷は以前は荒れた森だったそうだが、公園化され、月に二回、自然愛好会の方々が植物の調査や雑木林の手入れを行い、維持に努めている。これまで川や海を守るにはどうやって水を汚さないようにするか、ということに目を向けてきたが、きれい

な水を守るには森を育てていくことも大切だとわかった。実際のところ、森を育てて川の水がすぐにきれいなわけではない。大事なのは時間がかかっても私の子どもやそのまた子どもたちがきれいな水の恵みをうけられるようにすることだ。気をつけなければいけないのは、自然に手を加えるのではなく、自然が本来の姿に近くなるように「ほんの少し手伝う」ことだと思う。自然愛好会のボランティア活動は高校生から参加できるそうだし、それまでこの景色をずっと心にとめていようと思う。森を抜けると雨が降り出した。今日の雨はゆううつじゃない。

## 水のふるさと

横浜市立新羽中学校

三年 近藤 杏樹

たくさんの木々に、美しい花。鳥の鳴き声が聞こえ、近くの川にはサケが泳ぐ。私の祖父は、北海道に森を持っていきます。私は横浜に住んでいるので、森の中は非日常で、とても癒されます。私はこの森が大好きです。

夏休みのある日、私は祖父と妹と一緒に大好きな森へ出かけました。妹ときれいな花を見つけて遊んでいると、祖父は大きくて不思議な形をした車に乗っていました。何だろうと思い、聞いてみると、その車は草刈り機というものでした。森の手入れをするために、草を刈らなければいけないそうです。

どうして森林の整備をしなければならないのでしょうか。自然のものには、人の手を加えない方が良いでしょう。思えます。

実は、豊かな森林には間伐や枝打などの手入れが必要なのです。適度に間伐が行われていると、太陽の光が入り、下草が多く生え、水源かん養の働きが高まります。もし間伐が行われなければ、木々が込み合ってしまうため、太陽の光が入らず、また、根がおき出しになって土砂も流れてしまいます。よって、水源かん養の働きが低下し、私たちの飲み水も安定的に確保されなくなるのです。

豊かな森の土壌は、スポンジのような構造になっており、そのすきまに裸地の約3倍もの水を蓄えることができます。私が祖父の森に行った時も、土はフカフカで、少し歩くとくつが湿るような感じがしました。雨水を蓄えることで、森林が水をきれいにしながら少しずつ時間をかけて流すので、洪水を防ぎ、川も濁らず透明になります。また、私たちが普段、使用している水も森林からやってきています。私の住む神奈川県では、4つのダムが森林から流れ込んだ水を水がめとして貯めて、県民に必要な水の9割以上を賄っています。

このように、森林は水にとって必要不可欠であり、大きな役割を担っています。豊かな森を守っていくために、

私たちができることは何でしょうか。自ら間伐や枝打などをするのは難しい、という人は多いと思います。なので、国産の木材で作られた商品を選んで購入するというのが良いと思います。外国産の安い木材が入るようになった一方で、国内では人件費などによりコストが高くなってきています。また、森林の手入れをする所有者や林業で働く人も減ってきてしまっています。このままでは、森林の手入れがされなくなり、荒れた森林が増えてしまいます。国内の林業を助け、豊かな森林を守るためにも、国産木材の商品の購入をぜひ実践していきましょう。

最後に、水は私たちの生活に絶対に必要で、ずっと先の未来でも、水はとても大切です。きれいな水を、きれいな地球を、残していくために、私たちが今、行動しなければなりません。祖父の森で見たような、あの美しい水のふるさとを、みんなで協力して守っていきましょう。

## 水不足は身近な問題

横浜市立新羽中学校

三年 初山 智康

日本は水に恵まれている。そう思われがちである。だが、日本でもたびたび渇水が発生し、水道水の断水などが起こってしまっている。蛇口をひねれば当たり前前に水が出てくる日本でも水不足といわれている。一体何が、水不足になる原因なのだろう。

私が初めて水不足について考えたのは、小学五年生の世界問題についての授業のときだった。家に帰り、親に「どうして日本は水がたくさんあるのに、世界では水が不足しているの。」と聞いたとき、「実は世界だけじゃなくて、日本も割と水が不足しているんだよ。」と返ってきた。この言葉で水不足は身近な問題だということに気づき、水不足について調べてみることにした。すると、意外な理由が分かった。一つ目は、地球温暖

化による気候変動によって、水が必要なときに使えなくなっていることだ。二つ目は都市開発による森林伐採で水が減少してしまっていることだ。しかし、これが水不足の原因になる？ と不思議に思う人も居るだろう。

「地球温暖化も森林伐採も水が不足する原因ではないのではないか」と。しかし、ちゃんと水不足の原因になっているのである。

地球温暖化が進むと、強い雨が降る日数が増える代わりに弱い雨が降る日数が減り、干ばつが起る日が多くなってしまふ。極端に雨が降ること、水を効率的に使えなくなってしまうのである。

そして、森林は雨水を蓄え、綺麗にし、時間をかけて流してくれる。そのため、川の渇水を防ぎ、なおかつ、洪水も防いでいるのだ。つまり、森林伐採をしてしまうと、水が染みこまなくなってしまい、水が流れていってしまうのだ。しかも、森林があればいいというわけでもなく、しっかりと間伐や枝打を行わないと、森林は荒れ果て、水源かん養の低いものとなってしまふ。しかし、この大変な作業をする人たちがだんだん減ってきてしまっている。故に、日本にある森林のうちの十一パーセン



トが荒廃地である。

では、どのようにすれば水を守っていけるのか。そう考えているうちに、節水することも水を守る大切な取り組みだが、それだけでは、水を完全に守ることはできないのではないかと思った。節水しても、地球温暖化や森林の伐採や荒廃が続いていくと、どんどん水が減っていつてしまうだろう。

多くの人は水不足の対策と言ったら、節水を思い浮かべるだろう。だが、もつとできることがあるのではないか。例えば、水不足に地球温暖化が関わっているのなら、二酸化炭素の排出量を減らすために、節電する、マイバックを持ち歩く、自転車での外出を心がける。森林の伐採や荒廃が関わっているのなら、再生紙を積極的に使う、紙を節約する。水不足の原因はいろいろな物事と絡んでいる。だからこそ、私たちにもできる、水を守るための比較的簡単な取り組みが、節水の他にもたくさんあるはずだ。水不足は身近な問題でもある。このことを一人ひとりが理解し、皆が取り組んでいくことが、水を守ることに繋がっていくはずだ。

## 安全な水の現状と私たちにできること

川崎市立白鳥中学校

一年 原口 權

水は皆さんにとってどんな存在ですか？ 人によって答えは違うと思いますが、僕にとって水は生きていく上で絶対に必要な存在だと思います。なぜなら人間は水が無ければ生きていけないからです。人体の構造と機能に関する書籍によると、年齢によって体内の中にある水の割合は異なりますが、最低でも50%必要とされています。つまり、人間が生きていく上では、安全な水を飲み、その割合を維持していかなくてはならないのです。水が人間にとって重要な存在であり、大切にしていかななくてはいけないものであると学びました。しかし、世界に目を向けてみると、深刻な水不足になっている地域が数え切れないほどあります。例えば、安全に管理された飲み水を飲むことができない人は、世界人口のうち約38%

おり、そのうち約一億四千万人の人々は、安全に管理された水ではなく、汚染された湖や川の水をそのまま飲んでいきます。その水を飲んだことで、私たちが人間に悪影響が及び、様々な病気を引き起こします。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、安全な水がより貴重になっています。世界では、汚れた水を飲み、コレラ菌や細菌性赤痢などの感染症にかかり、一日あたり八百人の子どもたちが影響を受け、年間約三十万人の子どもたちが亡くなっている現状があります。

では、このような現状を改善するために、私たちは、どのような取り組みをしていけば良いのでしょうか。現在、世界全体での大きな取り組みとして「持続可能な開発目標」があり、その中の一つに「安全な水とトイレを世界中に」があります。具体的な目標は、衛生的な環境と水とトイレを世界中に届けるとしていますが、全世界における達成度は低く、二〇三〇年までに達成不可能だとされています。さらに、今この瞬間にも、安全な水を確保することができず、苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。そんな子どもたちのために、私たちができることはないのでしょうか。私は、次の二つの取り組みがで

きると考えます。一つ目は、安全な水が子どもたちに届くように、募金活動をする事です。私たちが、三千元を募金することで、感染症を引き起こしていた汚れた水を安全な飲み水にすることができ、浄水剤約七千錠分に変えることができます。約三万五千リットル相当の安全な水を寄付することと同じことになります。このように募金活動を通して、多くの命を助けることに繋がるのではないかと考えます。募金活動は様々な場所で行われていて、実際に私の学校でも、募金活動を行っています。今後、私は学校で水の大切さを伝え、募金活動に取り組んでいきたいと思えます。二つ目は、日本の水処理技術を世界に提供することです。世界中でも、日本の水処理技術は、発展しています。例えば、海水を飲み水として淡水に精製する「海水淡水化技術」、微生物・藻・小動物など自然界の仕組みを上手に活用した「生物浄化技術」等は、日本が誇る水処理技術です。現在、これらの技術を活用した装置は、中東やアフリカ等の安全な水を確保することができない地域で一部使用されていますが、全ての地域に提供されているわけではありません。今後、私は水処理技術に関する知識を深め、さらに簡単に効率

的に安全な水を確保できる技術を開発できるように研究に取り組んでいきたいと強く思っています。

日本にいと、水の大切さを感じることがありませんでした。しかし、世界に目を向けると安全な水がなく、苦しんでいる多くの子どもたちがいる現状がありました。だからこそ、私たちの明るい未来のために、水を無駄遣いしない、募金活動を主体的に計画・実施していく、水の大切さを身近な人に伝えていくなど自分ができる小さなことから積極的に取り組んでいきたいと思えます。

## 水と私たち

横浜市立南戸塚中学校

三年 若狭 いおり

私は、当たり前のように蛇口をひねり、水を使ってい

ます。でも、このように蛇口をひねるだけできれいで安全な水が出てくるのは当たり前ではないと、あるきっかけで知りました。それは、何気なく見ていた、ウクライナについての記事でした。そこでは、住んでいる場所を追われ避難する市民や町の様子の他に、深刻な水不足について取りあげられていました。住んでいる人々は安全な水を手に入れるために、トラックで輸入された水に頼るか、近隣の村まで出かけて井戸の水を汲まなければならぬそうです。

今の日本には、ウクライナのような戦争の危機は差し迫ってはいないかもしれないけれど、地震などの自然災害が起きると生活のための水が手に入らなくなることは

十分考えられます。そのための備えとしてどんなことをしているのか、親に尋ねてみました。親が教えてくれたのは、飲料水を定期購入して家族四人が三日間生活できるようにしているということです。実際にこのように水を備えたおかげで、災害時に水不足にならなかった、という人が多くいたからだそうです。水があるだけで、お風呂や料理、手洗いをすることができると、水は、私たちの生活になくてはならない存在です。

また、水を長期的に使うためには、節水することも大切だと思います。でも、節水することがどのようなことに繋がるのか正直よく知りませんでした。そこで、浄水場に勤めている伯父に話を聞いてみました。伯父は、電氣を使ってポンプで水を常に供給している、と教えてくれました。つまり水を使用する度に、電氣が使われているということです。さらに、電氣を使うと二酸化炭素が発生するので、水を使いすぎると地球温暖化が早まる原因にもなります。これを聞いて私は、普段から使わない時は蛇口を閉める、お風呂の水を再利用する、など身近なところからでも、節水を心がけていきたいと改めて思いました。

他にも、浄水場での仕事内容を教えてもらいました。水圧の確認、水の消毒作業などすべて大変な仕事でした。浄水場での仕事には、他にも役割があるようなので、私たちが安全な水を使えるようになるまでにたくさんの方が関わっているということです。私は、これを聞くまでは節水するのは地球のためだとばかり考えていました。でも、たくさんの方の努力があったからこそ水を使えていると思うと、感謝しなければならぬな、と感じるようになりました。

私は、これらの見たり聞いたりした経験から、二つ思うことがあります。

一つ目は、少しの行動でも、地球の役に立つことができるということ。たとえば、前に書いた通り、水をおだ使いしないように使わない時は蛇口を閉める、再利用するなどがあげられます。このくらい簡単であれば、すぐ実行できる他に、周りの人に広めるのも簡単だと思います。

二つ目は、深刻な水不足が起きていることや、水を使いたくても使えない、という事実があることを、知っておくべきだということです。すぐには変えられない問

題だから、私が直接手助けをすることはできないかもしれませんが、でも、知っておくことで、募金に参加したりボランティアをしたりと、悩まされる人へのサポートができるのではないのでしょうか。ですから私はこれから、実際に行っていきたいと思うし、広めることもしていきたいです。

## 水の大切さ

横浜市立南戸塚中学校

三年 實方 瑚菜

皆さん、どうして人間には水が必要なのかを知っていますか。それは、人間の体の半分以上が水でできていて、吸収した栄養を水にとかして体全体に行きわたらせているからです。また、体内を循環する水分のほかに体外に排出される水があります。人間が生きていく上で欠かせない「呼吸」も、体から水分を排出し続ける生理現象です。水は、人間が体の機能を維持するための、生命に関わる重要事項となっているのです。

現在、世界人口の四十パーセント以上にあたる三十六億人が水不足に悩まされており、今後とも上昇すると予測されています。水不足の原因は主に三つあります。

一つ目の原因は「水の使用量が増えていること」です。その背景には人口増加と産業発展があります。世界の総

人口は約七十三億人から九十七億人に増加するといわれています。人口が増えるほど水の使用量は増え、不足の事態は悪化していく一方となります。また水は工業や農業にも利用されており、そうして使用された水は、河川や海、地下水の汚染にもつながっているのです。限りある水資源が汚染されると、使用できる水はさらに少なくなっていくます。

二つ目の原因は「水を効率よく使えていないこと」です。実際のところ、水の利用可能量は異常気象や降水量の変動などに左右され、とても不安定であり、この不安定さを促進しているのが地球温暖化を原因とする気候変動です。温暖化は降水量だけでなく、雨の強度や頻度も変化させています。そのため、降水パターンの変動はますます激しくなり、季節ごとや月ごとで見ると、水不足に悩む地域が出てきやすくなってしまうます。

三つ目の原因は「水源が守られていないこと」です。都市化による乱開発などが進むことによって、水田が消失したりするなど、水源が破壊されています。また、日本には浄水処理が存在しますが、世界にはそうしたインフラが整っていない地域も多く、一度汚染された水は汚

染されたまま使用せざるを得なくなり、安全できれいな水は不足していく一方なのです。

水不足の原因に対して私たちにできることは、「水の使用量を減らすこと」「水を効率よく使うこと」「水源を守ること」です。例えば、料理、歯みがき、食器洗い、トイレ、お風呂、洗濯など生活のあらゆるところで使用する水を、最低限に抑え、節水を心がけることです。流しっぱなしは絶対にしない、食器洗いや洗顔は水をためて使用する、節水コマを使うなど工夫はたくさんできます。水不足の原因はどれも、私たち一人一人が日々の生活の中で少しずつ意識すれば対策につながるものばかりです。一つ一つは小さな取組かもしれませんが、みんなが取り組めば、大きな効果を得ることができます。私も日々の生活の中で、なるべく節水することを心がけて世界で水不足に悩む人々が少しでも減ったらいと心から思います。

## おいしい水の命は元気な森

聖園女学院中学校

一年 細谷 理夏

私は、これまで気づかないうちに、たくさんの水の恵みを受けて、生活してきたと思います。水道の蛇口をひねれば、飲むことができる水が出てくるし、小学校の校外学習で行った宮ヶ瀬ダムや、家族旅行で行った黒部ダムでは、観光放水を見ることができ、そのスケールの大きさに圧倒されたのは、良い思い出となっています。

しかし、この水の恵みは簡単にもたらされるものではありません。例えば、私の祖母は岩手県盛岡市の隣にある滝沢市に住んでいます。滝沢市は自然が豊かな場所なので、水も豊富にあるのだろうと思っていました。ところが、祖母に話を聞いたところ、市内には、北上川という大きな川が流れています。この川は、岩手県中央部を北から南に流れ、隣の宮城県東部の石巻市という所に流

れています。流域面積は東北地方の河川の中では最大で、日本全国では四番目の規模です。そして、昔からきれいな水が流れ、豊富な水量が人々の生活をうるおしてきました。大正時代に入ると支川赤川の上流に松尾鉾山という鉾山ができましたが、これが汚染の原因のもととなっていくのです。この鉾山から、流水する鉾毒水で赤川は酸性水に汚染され、その量が多くなるにつれ、北上川にも汚染が広がりました。昭和二十年後半からは魚が生息できないほどになり、北上川はやがて、「死の川」となってしまうのです。この川からは人々は遠ざかってきました。その後、県や国が水質を改善するために、様々な事業を行い、北上川の水質は徐々に改善されていきました。昭和四十九年の秋には、魚が姿を見せ、鮭のそ上が確認されました。水質は改善されていきましたが、いまだに、飲水には適しておらず、昔のように、人の口へとは運ばれてはいません。それでも農業用水には、使用できることが確認され、農業用水に利用しているそうです。そのため、水道水は、岩手山の伏流水を、貯水して、引水し、まかっています。このことから私は、飲み水は限られた自然の資源によって、もたらされるものなの



だと思いました。

この限られた水の資源である豊かな水を維持し、大切にずっと使っていくには、水源である森を守り育てることが大変重要なのです。

森を育てるためには、間伐（混み合った木の本数を減らすこと）や、枝打ち（木の余分な枝を落とすこと）を行い、森の中に日光を、十分に入れて、下草が生えるようにする必要があります。このように手入れがきちんとしていない森だと、木々が混み合い、日光が入らず、下草も生えていないため、降った雨水が貯まることなく、すぐに流れ出てしまうからです。また、森の手入れを進めるために、間伐した木は市場に運び出して売られるなどと、環境のためにもリサイクルをする必要があると思います。

水道水は無限にあって、簡単に作られるものではなく、水源である森の恵みと人々の働き、貯水、浄水などの技術によって、もたらされるものではないかと、私は思います。そして、私は水源である森にも、足を運び、水道水などの水について、もっと理解を深めていきたいと思っています。この機会に調べたり、聞いたりしたことは、周

困の人たちとも共有して、皆で水に対する意識を高められたら良いと考えています。そして私が書いた以外にも、汚染され水が飲めない所は、日本だけでなく他の国（外国）にもあります。まずは、今、私たちが出来る最前線のこと（ボランティア活動など）をして、一日でも早く世界中の人たちが、安全で安心して飲める水になるように日々、生活していきたいです。

## 水から学ぶ事

横浜市立南戸塚中学校

三年 柳田 亜美来

水は私たちが生きていく上でかせない物だ。洗濯をしたり、トイレの水を流したり、もちろん飲み水としても大切である。水があることに感謝して生きよう、よくそう言われているが、日本に暮らしていて水に困ることはほとんどなく、あまり実感が湧かない。私はそれは実際に体験してみないと分からない事だと思い、一日中、水を飲まないで過ごしてみた。

当日の朝、いつも朝ごはんと一緒にコップ一杯の水を飲むが、その日は何も飲まずに家を出て、部活に向かった。運動をして、水飲み休憩の時間になり、みんなは水を飲んでいいる。私も水を飲みたかったけれど、我慢した。しかし、のどの渴きは限界になり、耐えられず水道の水を飲んだ。数時間ぶりに飲んだ水はとてもおいしくて、

感動した。水に感動する日が来るなんて思いもしなかった。私は普段からあまり水を飲まない。だから、一日くらい簡単に乗り切れると思った。しかし、全然そんなことはなく、半日ももたなかった。

私は当たり前のようにいつでも水が飲める環境にある事はとても恵まれていると感じ、もっと水に対してありがたみをもって生活しなければならぬと、今回の経験から学んだ。

しかし、さっきも言ったように、日本に暮らしている私たちは水に困ることがないので、ありがたみを実感しにくい。その事を感じるためには水についての問題の現状を知る必要があると思った。

水についての問題は世界中で起こっていて、これは水資源が不足している地域では死活問題となる。

ではなぜ水が不足してしまうのか。いくつか原因はあるが、主な原因として上げられるのは二つだ。

一つ目は、地球の気候の変動だ。最近の異常気象や降水量の変動により、使用可能な水の量が左右され、とても不安定な状態となる。洪水が起き、水が必要以上に増えたり、干ばつによって必要な分の水を得られなかった

りして、水を効率よく使えていない。水が必要なときに必要な量がなければ、それは水不足としてとらえられてしまう。気候変動が水不足の原因となっている事は間違いない。

二つ目は産業の発展だ。水は工業や農業にも利用されている。そのような産業が発展し活発になるほど、水の使用量が増え、水がどんどん増えてしまう。また、工場を建てるために森林伐採が進み、水を蓄える働きをする森が減少するなどの水源破壊も起こっている。水の使用量は増えているのに、それに反比例するように水源は減ってきている。

今あげた水不足の原因となる気候変動と産業の発展。どちらも日本のような先進国がこれらの問題を引き起こす中心となっている気がする。気候変動は地球温暖化が大きな原因になる。地球温暖化は二酸化炭素が排出される事によって起こる。二酸化炭素排出量が多い国は先進国に多い。また、産業の発展も先進国を中心として起こってきた。なので、やはり水不足の根本的な原因をつくったのは先進国になる。しかし、水不足の影響を大きく受けている所はアフリカやアジアの小さな貧しい国々、

つまり発展途上国だ。水不足の原因に直接関係のない人々が被害を受けているのだ。不衛生で汚れた水を飲み水として使用しなければならなかったりと生活に必要な水を十分に確保できていない人々が世界中にいる。私たちはその現状をよく知らないまま、水が無限にあるかのように、じゃぶじゃぶと、必要のない量を無駄に使ってしまっている。

私たちはもっと当たり前に水が使える環境に感謝して過ごさなければならぬ。これは水だけの話ではなく、食べ物や安全になに不自由なく暮らせている事に対してもだ。

私も当たり前が当たり前でない事を忘れずに、日々感謝して生きていこうと思う。

## 川の変化と将来

横浜市立新羽中学校

三年 加藤 千尋

私の住んでいる場所の側には、鶴見川という川が流れています。歴史のある大きな川で、小さい頃にはよく河原で友達と遊んだりした思い出のある場所でもあり、今でも地域の子供から大人まで、沢山の人と関わりのある川です。

ですが、私は鶴見川について、一つ気になっていた事があります。

私が小学生の頃、友達と河原でボール遊びをしていた時、勢いあまってボールが川の方へ飛んで行ってしまい、普段は近づかない茂みの奥へボールを取りに行った所で、衝撃的な光景を目の当たりにしました。缶やペットボトル、傘やタイヤなどのゴミの山。黒く濁り油の浮いた水。あたりに漂う異臭。普段遊んでいる場所の近くにこんな

所があったのか、これ程汚いと、まわりの動植物に悪い影響が出るのではないか。今でもよく覚えているので、本当に大きなショックだったのだと思います。

その出来事から十年弱たった今、鶴見川はどうなっているのか。私は、ここ数十年の鶴見川の水質の変化について調べました。

今から数十年前、鶴見川は「水害、汚染、ごみの川」と呼ばれていた時期がありました。鶴見川は蛇行が強く、江戸時代頃から近年までたびたび氾濫していました。それに加えて、川周辺の市街地化や、工場が多く建つなどの発展から、生活排水や工業排水の影響が出はじめたことにより、そのような呼び名が広まりました。日本で二番目に汚い川というフレーズを聞いたことがある人が居るかもしれませんが、この順位は元にされているデータの数が少なく、事実とは異なった結果となっています。水質の状態を表すBOD値というものが、約一・五倍程高いことから、水質の悪さは確かだったことがわかります。

しかし、これらは今から約二十年以上前の鶴見川の状態です。そこから鶴見川は、劇的な変化を遂げていまし

た。

都市河川の水質の改善には、下水道の普及が必要不可欠です。鶴見川周辺の都市では、その普及率が、十五年前から急速に増加しています。平成三十年時点で全国の都市河川の平均的な普及率が約七十三%なのに対して、横浜川崎域で約九十九%、町田域で九十二%ととても高い普及率を誇っています。また、BOD値も十年前に比べておよそ半分にまで減少しました。さらに横浜市では、港北、都筑、北部第一をはじめ十一ヶ所で水再生センターが稼働しており、水質の改善に努めています。

その他に、川周辺の生態系を守る取り組みである川のゴミ拾いや、川の生き物について学ぶイベントが定期的で開催されており、私も何回か参加したことがあります。ここ数年では、アユなどのきれいな水の川にしか住まない魚が観測されるなど、鶴見川の変化は確実に表れており、沢山の人々の協力によって、さらに良い川へと進化しています。

私が気になっていたあの場所も、今ではきれいな川辺になっていて、近くの河原では、毎日のように遊んでいる人たちが居ます。このように鶴見川は、沢山の人々に

よる様々な協力によって、水質が改善されていっています。少しでも川のためになる行動をとれば、近い将来、必ず私たちに返ってくるでしょう。みなさんは身の回りにある川について考えたことがありますか？ ぜひ一度、自分たちの川の将来について意見を出してみてください。それは、やがて自分自身の未来に関わってくると、私は思います。

## 水の命は人の命

横浜市立篠原中学校

三年 齋藤 桜彩

「水にも命がある」私がそう感じるようになったのは新型コロナウイルスの影響で様々な活動の自粛が求められた結果、世界各地の海や湖、川の水がきれいになったというニュースを見た事がきっかけです。水の都として有名なベネチア運河では劇的に水が澄み、白鳥が悠々と泳ぐ姿が映し出されていました。また、ハワイの海も同様に観光客が減ったことで水の透明度が増して珍しくウミガメが巣作りを始めたそうです。私はこの映像を見て「今まで人間が水の命を奪っていたんだ」と感じました。そして、これからの行動を変えていかなければいけないと思いました。

私達は水がなくては生きていきません。一人が一日に使う水の量は約二五〇リットルと言われています。私は

四人家族なので私の家だけで一日に一〇〇〇リットルも使っているのです。こんなにも水が必要なのに私は今まで節水することが水を大切にすることだと考えてただけで「水の命」という視点を持つことがありませんでした。水は循環型の資源とはいえ、私達が守っていかなければいつか生活を支えることができなくなってしまうのではないのでしょうか。

水の命を守ることは人の命を守ることです。そのために私達は何をすべきなのでしょう。私はSDGsの十七の目標を思い出しました。持続可能な世界を築き人と地球を守るために掲げられた目標です。その中に「安全な水とトイレを世界中に」という目標があります。私は「安全な水」という言葉に着目して世界の水事情を調べました。世界には水道設備のない生活をしている人が十二億人もいます。そしてそのような地域の人々は有害な物質が含まれている水だとしてもその水で生活するしかないのです。そしてそのために命を落とすことは少なくないと感じました。水が生きていなければ人も生きられないことを痛感します。やはり、水は人の手で守っていくことが必要です。

私が住んでいる横浜市は明治二十年に日本で初めて近代水道ができた都市です。港町として栄え、古くから水が豊富だったと思うかもしれませんが横浜市の水を支えてくれている場所の一つは山梨県道志村の山林です。この山林は「水源涵養林」として百年以上も前から水を守り、私達の生活を支えています。水源涵養林は長い年月をかけて作られた柔らかい土壌が雨水を蓄え、ゆっくりと地中に浸透することで浄化された地下水となり、その地下水が湧き水として河川になるといふ働きをしています。そして、地下水がゆっくりと河川にしみ出てくることで洪水の緩和にもなる素晴らしい機能を持っています。しかし、自然の力だけに頼っているのではなく、下草をとったり間伐をしたり、保水機能の高い広葉樹を育てるなどたくさんの人の手で大切に守られて今があることを忘れてはいけません。労力も時間もかかる活動ですが、これが水の命を守るといふことなのだと思います。私の家の蛇口から出る水が長い年月をかけて自然の力とたくさんの人の手で守られたものだと思います。とても貴重でありがたく感謝して使わなくてははいけないと感じます。水の命を守るためには一滴一滴の水が人の命を左右する

大切な資源であり、守っていく必要があると学ぶのが第一歩です。そして二歩目は自分にできることを考え、行動していくことだと思います。私は「水の命II人の命」という意識を多くの人に持ってもらえるように伝えていくことを二歩目の行動にしようと思います。多くの人が意識することで世界の水はもっときれいになるはずですがまだ水道のない国や地域の人々が水によって命を落とすことがなくなるようにしたいです。

水の惑星とよばれる地球です。何十年後も何百年後もきれいな水で覆われて青く輝いているように努力していきましょうと思います。

## 蛇口を閉じてみれば

横浜市立南戸塚中学校

三年 前田 千尋

「水を節約しなさい。」とは、よく言われたことです。顔を洗うときは洗面器に水をため、お皿を洗うときはある程度汚れをふきとってから―というように、家だけではなく、学校やテレビなどでも教育をされてきたはずですよ。

ですが、一体何のために節水をするのでしょうか。家での節水は水道代の節約、ということでしょうか、学校やテレビでも呼びかけるのは、何か他の理由があるに違いありません。

そこで私は、節水について調べてみました。すると、一つの記事の中に、

「水は有限の資源である」と書かれていました。私ははっと気付かされました。石

油や、石炭などが限りある資源であることは、私たちのよく知る通りです。しかし、水が限りある資源であることなど、常に考えて生活することができでしょうか。だって、周りを見わたせば、たくさん川が流れ、広大な海が広がっているのですから―。

ですが、よくよく考えてみれば、これはあたりまえのことに過ぎません。あふれるほどの海や川だって、無駄に使い続ければ、循環は追いつかなくなり、いつか底をつくでしょう。

また、綺麗な水を使うには、浄水場の存在は不可欠です。ただ、浄水場で水を綺麗にするときにも、電気を使います。電気を作るためのエネルギーは、多くの国が化石燃料に頼っています。つまり、水を無駄に使うことは、間接的に見ても有限の資源を大量に使ってしまうことになるのです。

さらに、水を節約することは、水が有限の資源であるというのとは別の観点から見ても、非常に大切なこととなります。

世界に、安全な処理をされた水を飲めない人がまだ多くいることは、誰もが知っていることでしょう。汚れた



泥水を飲むために、毎日八キロメートルもの道のりを往復して、水を汲みに行くなどというのは、あまりにも有名な話です。

私たちが余分に使っている水を、世界中のそうした人々へ届けたい。これは、ごく自然に浮かびあがる思いではないでしょうか。

ならば、水を余分に使わなければいいだけの話なのです。

そんなの直接的な支援にはならない。意味はない。実際私が抱いた感想もそうでしたし、あなたが間違ったことではないでしょう。よっぽど、支援団体に募金をするなり、寄付をするなりしたほうが、彼らの助けになるでしょう。

しかし、水を使うことは資源を使うこと。毎日、私たちに綺麗な水を届けるために、今日も発展途上国では木々が切り倒され、森林面積は減少しているでしょう。森林は天然のダム。これがなくなれば、彼らの水が今以上に汚れ、人体に害を及ぼすことは、目に見えています。

森林で水をろ過することができなくなるのですから。

だから、節水することで、それを防げると思うのです。

もしかしたら、そんなに変わることはないのかもしれないけれど、小さな積み重ねが、やがて実を結ぶ、と私は信じています。

私たちが無駄に使っている水は、日本だけでも約百二十億リットル。少しでもこれを減らしていけるよう、今日はいつもより長く蛇口を閉めてみませんか。

---

第44回「全日本中学生水の作文コンクール」  
神奈川県優秀作文集

---

発行 : 令和4年7月  
発行元 : 神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室  
電話 (045)285-0049(直通)

---



神奈川県

政策局政策部土地水資源対策課水政室 水政グループ

横浜市中区日本大通1 丁目231-8588 電話(045)285-0049 (直通)